

【柳井市】 校務D X計画

社会情勢の変化に伴い教育課題がますます多様化、複雑化していく中で、教職員の多忙化が問題となっている。教職員の長時間勤務を解消し、教職員のワーク・ライフ・バランスの実現に向け、学校の働き方改革を推進するうえで、校務D Xの推進は、極めて大きな役割を果たすと考えられる。

本市の現状は、「G I G Aスクール構想の下での校務D Xチェックリスト」による自己点検の結果等によると、依然として紙ベースの資料が多く利用される等、クラウド環境の利用がゆっくりと進んでいる状況が見受けられる。

今後は次のとおり方針を定め、引き続き校務D Xの推進を図っていく。

1 統合型校務支援システムの運用

令和6年度から県下共通のパブリッククラウド方式の統合型校務支援システムの運用を開始しており、児童生徒情報の共有化と多様な校務処理の効率化が可能で、幅広い業務で活用している。

また、今後はさらなる機能改善、機能向上が検討されており、データ連携等により入力作業の削減を行う。

2 次世代の校務支援環境

教育用ネットワークの安全性を確保するため、令和6年度にインターネット接続を切り替えるソフトウェアを導入した。これにより、児童生徒の個人情報を取り扱う「校務系」とメールサービス等のインターネット接続が可能な「情報系」の2種類のネットワークの切り分けが行われ、教員の同一端末から安全にアクセスできるようになった。

教員の業務改善と働き方改革の推進を目指し、「校務系」と児童生徒も利用する「学習系」ネットワークの統合についても今後検討していく。

3 他市町・県教育委員会の連携

山口県において、県下共通のクラウドサービスの採用・運用について、県域での利活用推進のための準備を進めている。

柳井市においても、県下共通クラウドサービスを活用し、他の市町の学校等と協働的な学びを充実させる他、時間や場所に制限されない教職員間の情報共有や校務の効率化に向けた取組の共有など、県域での共同体制により校務D Xを一層推進する。

4 F A X ・押印等の制度・慣行の見直し

自己点検によると「例外的に必要と考えられる業務」を除いても日常業務でF A Xを利用している学校は6割を超え、業務で押印が必要な書類があると回答した学校は9割を超えている。

グループウェアやクラウドサービスの機能を有効に活用し、業務の効率性と正確性を比較検討しながら、ペーパーレス化、FAXや押印等の廃止について、制度・慣行の見直しに取り組む。